

平成26年度 国東市：大分県学力定着状況調査結果（小学校：国語）

1 結果のポイント

- ・偏差値は2年連続で上昇している。
- ・すべての領域で目標値を上回り、さらに偏差値50を上回っている。
- ・「発表の内容を聞き取る」のみ目標値に届いていないが、他の問題の内容は目標値を上回っている。

2 課題が見られた問題と指導の改善事項（領域別）

(1) 話すこと・聞くこと (1)

①出題のねらい

ア 話し方の工夫を考えながら、話の内容を聞くことができる。(1 (2))

イ 話し手の意図を考えながら、話の内容を聞き、メモをとることができる。(1 (3))

②問題内容

発表の内容を聞き取る問題である。

③解答状況

ア (1 (2)) については、正答率45.7%であり、目標値55.0%を下回っている。

イ (1 (3)) については、正答率32.7%であり、目標値40.0%を下回っている。

④指導の改善事項

話の内容は理解できているが、聞いた内容全体をどのように整理するかに課題がある。

話し方の工夫を判断するには、話し合い活動等で事前に「話す」ときの視点を指導しておくことが必要である。

話し合い、スピーチや発表等の場面で、話を聞きながら話の中心や相手と自分の意見の相違点と共通点などをメモしてまとめる学習活動を行うことが求められる。

(2) 読むこと

①出題のねらい

登場人物の様子を読み取ることができる。(4 (3))

②問題内容

物語の内容を読み取る。

③解答状況

正答率は78.4%で、目標値80.0%を下回っている。

④指導の改善事項

物語の設定を把握するためには、前文の〔 〕の中の文章をまず押さえた上で、登場人物を確かめる必要がある。そして、誰の会話文なのか読み取る中で、登場人物の様子を叙述を丁寧に読んでほしい。

まとまった量の文章を素早く読むことが苦手な児童の学力を育成する基盤として、日常的に本に慣れ親しませることが求められる。

(3) 読むこと

①出題のねらい

文章の要点に注意して、全体の内容を要約することができる。(5 (3))

②問題内容

説明文の内容を読み取る。

③解答状況

正答率は58.7%で、目標値60.0%を下回っている。

④指導の改善事項

3と4を選択した児童は、本文の最終4行を読み誤ったためと考えられる。1と2のどちらが正答であるかは、次の部分を読めばわかる。「ふぶき」が何かを理解できていれば、特に問題はないが、「すでに『ふぶき』の季節になっている」と判断してしまうと1を選択することになる。

要点に注意して読むことの指導をさらに充実されることが求められる。併せて、「雪おこし」や

「季節風」「ふぶき」等、生活の中からは得ることのできない言葉にも触れさせる必要がある。語彙量を増やすために、自ら調べたり、使用したりする活動の場面が大事である。

3 指導の改善のポイント

(1) 単元を貫く言語活動を設定した授業づくり

- 国語科は付きたい力を教えるのではなく、言語活動を通して、指導事項を指導し、付きたい力をつけていく教科である。よって、活用する力を高めるためには、単元を貫く言語活動を設定した授業実践の一層の充実が必要である。
- 「付きたい力（指導事項）」を明確にし、それを単元の指導過程のどこで付けるのか、本時では、具体的にどのような状況であれば「おおむね満足できる」と判断するのかといったことを明らかにしておく。

(2) 多様な図書資料等を活用する授業の推進

- 必要な情報を素早く見つける読み方や、必要な部分のみを詳細に分析する読み方等を経験させるような指導が大事である。
- 目的に応じた読み方を身につけさせるために、リーフレット、広告、ちらし、パンフレット、説明書など多様な資料を扱うような活動の充実を図る。
- 漢字の読みや語彙量に課題が見られる児童、まとまった量の文章を素早く読むことが苦手な児童の学力を育成する基盤として、本に慣れ親しませることが求められる。（不読者への取り組みが必要）

(3) 「話すこと・聞くこと」について

- 話し合い、スピーチや発表等の場面で、話を聞きながら話の中心や相手と自分の意見の相違点と共通点などをメモしてまとめる学習活動を行う。（聞く際のメモの意義を考えさせる）

(4) 「読むこと」について

- 文学的な文章では、「時・場所」「登場人物」「中心人物の変化」「語り手」「出来事」「大きく変わったこと」「三部構成」（はじめ・中・おわり）等に着目し、作品の大筋をイメージさせる指導の充実を図る。
- 説明的な文章では、「三部構成」「問いと答えの関係」「要点」「要旨（主張）」などの論理的な読み方の習得や活用を図る。

(5) 「書くこと」について

- 情報を活用し、条件に応じて自分の意見や考えを書く活動の充実を図る。
- 記述する力を高めるためには、「書くこと」の指導だけでなく、「話す聞く」「読むこと」等での活動と関連させるようにすることが重要である。また、考えを深めたり広げたりする「交流」の場面を単元の中に効果的に位置づける。
 - (例)・文章を下学年の人にわかるように説明する。
 - ・書かれていることを図や表にまとめて、それを用いて人に説明する。
 - ・一つの文章を様々に目的を変えたり、字数を変えたりして要約する。

(6) その他、学校全体で取り組むことについて

- 漢字や語句、文法、表現技法等の確実な習得には、繰り返し練習が不可欠である。国語科だけでなく、各教科のノートや学級日誌等、様々な場面での指導が大事である。
- 定着を図るため家庭学習の充実を図る。
- 「国語科データベース」や県「フォローアップワークシート」、くにさき地区研作成「フォローアップシート」等を効果的に活用する。